

ISSN 1343-4837

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第24集

大塚遺跡Ⅱ

個人病院駐車場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004.5

土佐山田町教育委員会

大塚遺跡Ⅱ

個人病院駐車場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004.5

土佐山田町教育委員会

序

本県最大の穀倉地帯を誇る香長平野の東端に位置する土佐山田町は、物部川の悠久の流れに抱かれ、古くから稲作農業が盛んに行なわれてきました。しかし近年、各種開発に伴い埋蔵文化財の調査も断続的に実施されております。

楠目地区においても宅地開発が進められ今回、個人病院駐車場整備が行なわれるようになり、当教育委員会では事業に先立つ埋蔵文化財の発掘調査を平成7年度より実施し、戦国期の楠目城下町の西部地域の様相を知る上で貴重な資料が得られています。このたび調査報告書として刊行することになりました本書が、今後の研究や、文化財保護思想の普及の一助となり、先人の残した歴史遺産を将来守り伝えていく契機となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査に際しまして、高知県教育委員会、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター、地元関係者の方々をはじめ、発掘調査から整理報告書に至るまでにご協力いただきました皆様に対し、厚く御礼申しあげます。

平成16年5月28日

土佐山田町教育委員会

教育長 原 初恵

例　　言

1. 本書は、土佐山田町教育委員会が平成7年度に実施した個人病院駐車場整備に伴う大塚遺跡発掘調査報告書である。
2. 大塚遺跡は、高知県香美郡土佐山田町下石町2丁目169番地他に所在する。
3. 当該地の発掘調査は、平成7年8月1日から平成7年9月20日、調査面積500m²である。引き続き資料整理・報告書作成を平成7年度、16年度にかけて行った。
4. 調査体制は以下のとおりである。

調査主体 土佐山田町教育委員会

調査事務 土佐山田町教育委員会

平成16年度

　　教育長　　原 初恵

　　社会教育課長　山崎泰広

　　調査事務　　小林麻由

　　調査担当　　中山泰弘

5. 発掘調査にあたっては、地元楠木地区の方々、土佐山田町文化財保護審議会、岩河整形外科病院の協力を得た。また、現場発掘調査・遺物整理・図面作成作業にあたって、下記の方々の協力を得た。記して感謝の意を表したい。

現場作業員

　　大塚俊明、今井春恵、佐々木龍男、竹崎芳子、山本花子、山下厚子、井上都雄、山崎政子、

　　小松一仁、池 宣弘、吉川 義、

整理作業員

　　伊藤 仁、中村千代、岡林 光、竹崎寛将、井上博恵、研川英征、宗石祥一、高橋加奈

6. 本書の執筆及び編集は中山が行なった。

7. 出土遺物及び調査資料については、土佐山田町教育委員会が保管している。尚、遺物についての注記は、「95-YO」を使用する。

8. 遺構の名称については、SB（擧立柱建物）、ST（竪穴状遺構）、SK（土壙）、SD（溝状遺構）、SE（井戸）、SX（性格不明土壙）、P（柱穴又はピット）を使用する。

本文目次

第Ⅰ章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境	
1. 地理的環境.....	1
2. 歴史的環境.....	3
第Ⅱ章 調査に至る経過と調査方法.....	8
1. 調査に至る経過	
2. 調査の方法	
3. 遺構と遺物について	
第Ⅲ章 遺構と遺物.....	10
(1) 土壙・溝跡	
(2) 包含層遺物	
第Ⅳ章 総括.....	12

第Ⅰ章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

土佐山田町は高知県の中央東寄りに位置し、県下第3位の川である物部川の中流域に位置する。物部川により形成された沖積平野に県下最大の穀倉地帯である高知平野の北端に位置し、物部川の洪積台地及び四国山地の一部を含む。

この物部川は、県北東部の香美郡物部村、剣山山系の白髪山（1,770m）の東斜面に源流を発し、高知平野東部の同郡吉川村で土佐湾に注ぐ。上・中流域は仏像構造線に沿って直線的に西南西流しており、流路に沿った上流へのルートは古米阿波國への最短距離として知られている。物部川に沿う山間部には河岸段丘が発達⁽¹⁾、土佐山田町で流路を南に変える。土佐山田町神母の木付近において平野部に流入し、肥沃な高知平野を縦断する。

高知平野東部を成す香長平野は不整形の扇状地で物部川両岸には鏡野⁽²⁾、山田野⁽³⁾と言われる古期扇状地の砂礫層からなる洪積台地を形成している。この台地は長岡台地と称される。長岡台地は、香長平野の北部を土佐山田町から南国市にまたがり、北東から南西に約5km連なる。洪積世中期以降に形成された比較的連続性に富んだ砂礫台地で隆起性扇状地である。

標高は扇頂部に近い土佐山田町付近では約50mに達し南西に緩やかに傾斜し、扇端部の南国市後免町付近では10m～15mである。台地面の北西側は国分川流域に扇状地性低地、南東側は物部川下流域の扇状地性低地に対して段丘面を持って接している。台地は河床から5m内外の標高を持ち、台地の間に新期扇状地が広がり、北端部は国分川の浸食により断崖を形成する。洪積台地には旧石器時代の遺跡は発見されていないが物部川河岸段丘両岸の山麓部⁽⁴⁾、国分川水系である砥川の発生する山間部の山麓部⁽⁵⁾で確認されている。また縄文時代の遺跡もほぼ同じ位置に所在する⁽⁶⁾。新期扇状地から沖積平野にかけての大地には県下最大の遺跡群、田村遺跡群（縄文時代～近世）⁽⁷⁾を始め大篠遺跡（弥生時代）⁽⁸⁾が分布する。また、条里制地割の造構が広く認められるが、旧物部川は洪水氾濫をたびたび繰り返しており条里制地割の乱れた地域も多く、旧流路も數本認められる。

土佐山田町の市街地が乗っている扇頂部分付近は周囲に比べて高位な面となり、南部に一段低い下位面があり、二段の段丘面となっている。中央部から末端部は低地性氾濫原に向かって緩やかに台地斜面が傾斜し、特に南西端は扇状地性低地の颗粒性冲積層に埋没しており湧水地帯となって小河川が流出し湿地帯を形成している。土壤は多湿黒ボク土壤であり、層の厚さは20cm～50cm以上で下層は灰色か灰褐色の場合が多い。台地面は自然の河流が無く江戸時代以前は開発が遅れていたが、江戸時代初期、土佐藩奉行野中兼山が物部川に山田堰を築き、灌漑水路を設けたことによって台地面にも導水が行なわれた。開発には、郷士が登用され、台地上には旧郷土屋敷が散在し、散村的景観を呈している。また、後免・土佐山田・野市の在郷町もこの時期に形成されたものである。

灌漑用水により、かつては米の二期作が盛んであり、現在も高知平野の水田地帯の一部であるが、乾田であるため、古来、葉タバコ・野菜の栽培も盛んである。近年はビニールハウスの施設園芸も増加してきている。町域面積の70%を森林地帯で占め、林業が盛んで良材を多く産出する。工業は、地場産業の打刃物などがある。扇頂部の土佐山田町は物部川上流部と香長平野の接点に立地した谷

山集落でもある。台地面はかつて開発の主体となった郷士屋敷の点在する散村形態がみられ、現在もその景観の名残がみられる。台地面の長軸（北東～南西方向）にはほぼ沿う方向でJR土讃本線及び国道195号線が直線的に通過している。東にある三宝山の中腹には国指定史跡及び天然記念物である龍河洞があり、県下でも有数の観光地となっている。

計

- (1)『南国市史』上巻 南国市教育委員会 1979

(2)『野市町史』上巻 野市町教育委員会 1992

(3)『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会 1979

(4)佐野橋目山からは石核、剥片などが表面採集されている。

(5)新改西谷遺跡からはナイフ型石器が多量に出土している。

(6)新改開キ丸遺跡などがあげられる。

(7)『冨村遺跡群 高知県空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』第1分冊～第15分冊 1986

高知県教育委員会

(8)註(1)に同じ

参考文献

- 『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会 1979
『角川 日本地名大辞典 39高知県』角川書店 1986



図1 高知県の市町村と土佐山田町の位置

2. 歴史的環境

土佐山田町は、地理的に恵まれ県下最大の穀倉地帯である香長平野の一画に位置することから原始以来、脈々と人の営みを台地に刻みつけている。また、南に隣接する南国市とともに県下屈指の遺跡密集地帯である。

土佐山田町の歴史は、北部山麓部の西谷遺跡⁽¹⁾の調査により旧石器時代後期に始まる。二次堆積物ではあるがチャート製のナイフ型石器が多量に出土し、遺跡の立地など奥谷南遺跡⁽²⁾と非常によく似ている。続く縄文時代では、新改川の河岸段丘上に立地する開キ丸遺跡⁽³⁾より早期押型土器が出土し、また新改川支流の砥川左岸の小山田遺跡⁽⁴⁾からは、晩期の土墳4基と突帶土器が出土している。北部山間部に所在する剣古屋岩陰遺跡⁽⁵⁾からは早期押型土器、厚手無文の葛鳥式土器、中期の船元II式土器、後期の彦崎K II式土器とともに多量のサヌカイト製の石鎌が出土している。また、東部物部川左岸の段丘上に林田シタノチ遺跡⁽⁶⁾が存在するが、ここではピット状造構から後期初頭の中津式土器が出土している。

弥生時代では前期に属する遺跡の確認には至っておらず、今のところ中期後半に位置づけられる龍河洞穴遺跡⁽⁷⁾が最古である。この遺跡は全山石灰岩でできた三宝山(322m)の中腹に開口した洞穴遺跡で、昭和8年に遺跡の部分が発見され、翌9年に天然記念物及び史跡として国指定を受けている。洞内の生活面は3室からなり、出土遺物は凹線文の発達した龍河洞式土器をはじめ、鉄鎌、石錘、有孔鹿角製品、貝輪、骨製管玉、瑠璃製勾玉等の装身具、貝類、獸骨類の自然遺物などである。また、龍河洞式土器に混在してただ一点、弥生時代後期末のヒビノキII式土器が出土している。龍河洞穴遺跡と同時期とみられる遺跡に、子岳遺跡⁽⁸⁾、雪ヶ峰遺跡⁽⁹⁾、影山遺跡⁽¹⁰⁾がある。中期後半に属する遺跡は多く、原遺跡⁽¹¹⁾、原南遺跡⁽¹²⁾からは堅穴住居跡とともに環濠と思われる溝や掘堀柱建跡等、集落を構成していた遺構も発見されている。その北部台地上には、弥生時代後半～古墳時代初頭の土器群が出土したひびのき遺跡⁽¹³⁾が存在する。これらの土器群はヒビノキI～ヒビノキIII式土器と命名され、高知県中央部以東の標準式土器とされていると同時に、同遺跡がその時期に集落遺跡として栄えたことを示している。

弥生時代も後期となると遺跡数、規模の拡大がみられ、特に同遺跡に代表される後期後半に属する遺跡の急増が認められる。隣接するひびのきサウジ遺跡⁽¹⁴⁾では、弥生時代後期後半の堅穴住居跡が5棟検出されており、この内1棟は祭祀的意味を持つものと考えられている。また、物部川左岸には林田遺跡⁽¹⁵⁾が存在する。ここからは堅穴住居跡5棟が検出され、土器と共に多量の鉄鎌が出土している。

古墳時代には、小円墳・横穴式石室・群集といった特徴を持つ後期古墳が存在し、山麓部を中心知られている。中でも、ひびのき遺跡に近い伏原大塚古墳⁽¹⁶⁾は、5世紀末から6世紀初頭に築造されたと考えられる。また、この古墳の周溝からは須恵器の円筒埴輪が出土している。この期の須恵器の窯跡は今のところ発見されていないが、当古墳の埴輪の存在を考えれば、出現期は少なくとも築造期と同時期まで廻ることは可能であろう。また、これらの遺跡を特徴づける遺跡として当町北部の新改地区とその周辺に所在する須江古窯群を挙げることができる。奈良時代から平安時代にかけての須恵器、瓦焼成の窯跡が現在40数カ所確認されている。窯跡の中には比江廃守跡⁽¹⁸⁾の瓦

を焼成したタンガン遺跡⁽¹⁹⁾や土佐国分寺の平瓦を焼成した東谷窯跡⁽²⁰⁾も存在し、また新改川左岸の河岸段丘に所在する須江上段遺跡⁽²¹⁾、須江北遺跡⁽²²⁾からは官衙的埴立柱建物跡や多量の須恵器、土師器が出土している。特に須恵器には湾曲した遺物が混在しており、須恵器生産に係わる遺跡と考えられる。なお、新改、須江地区はその西方2kmに土佐国府を控えていることから国府と密接な結びつきが想定される。

当町南部の沖積平野は高知県最大の平野、香長平野北端部にあたり、広く古代の条里制造構⁽²³⁾を残している。また、「大領」・「田倉」・「宮毛田」等の地名があり、周辺からは古代の遺物が表面採集され古代香美郡の郡の推定值⁽²⁴⁾と考えられる。

中世では、土佐戦国七雄に数えられる山田氏⁽²⁵⁾が延久4年（1193）に土佐国へ入国以来勢力をばし、楠木の山田城を本拠⁽²⁶⁾に領主制支配を行うが、長宗我部氏により天文期頃攻撃を受けて滅亡する。

近世にはいり野中兼山⁽²⁷⁾による山田堰、上、中、舟入川の三用水の敷設等による長岡台地の開発により在郷町⁽²⁸⁾として香美郡北部の山間地域と南部の平野部との接点として物産集散地となり、高知城城下町の経済圏域として発展し、今日に至る。

註

- (1) 西谷遺跡『土佐山田史談』第25号「土佐山田町における考古学の成果と課題（VI）」2000
- (2) 『奥谷南遺跡Ⅰ』（財）高知県文化財埋蔵文化財センター 1999
- (3) 『問キ丸遺跡 新改中部地区開場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 2002
- (4) 小山田遺跡 註1と同じ
- (5) 『銅古墳岩陰遺跡発掘調査報告書』日本道路公団・高知県教育委員会 1983
- (6) 『林田シタノヂ遺跡Ⅱ 農村基盤総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 1993
- (7) 『龍河洞』高知県教育委員会 1959
- (8) 『土佐山田町史』P52 土佐山田町教育委員会 1979
- (9) 註8と同じ
- (10) 註8と同じ
- (11) 『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－原遺跡－』高知県教育委員会 1982
『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－原遺跡Ⅱ－』第25集 高知県教育委員会 1984
- (12) 『原南遺跡発掘調査報告書』高知県文化財団 1991
- (13) 『ひびのき遺跡』土佐山田町教育委員会 1977
- (14) 『ひびのきサウジ遺跡発掘調査報告書』（土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第8集）土佐山田町教育委員会 1990
- (15) 『林田遺跡発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 1985
- (16) 『伏原大塚古墳』（土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第14集）土佐山田町教育委員会 1993

- (17) 註8と同じ
- (18) 『高知県文化財調査報告書第16集 高知県比江庵寺跡』高知県教育委員会 1970
『高知県文化財調査報告書第33集 比江庵寺跡発掘調査概報』高知県教育委員会 1991
- (19) 註8と同じ
- (20) 『新改東谷古窯跡群発掘調査』上佐山田町教育委員会 1978
- (21) 『土佐山田北部遺跡群－山田北部県営は場整備事業に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書－』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第12集)
- (22) 註21と同じ
- (23) 岡本健児「土佐神道考古学5」『土佐史談』第120号
- (24) 註8と同じP217
- (25) 註8と同じP248
- (26) 註8と同じP354
- (27) 註8と同じP365

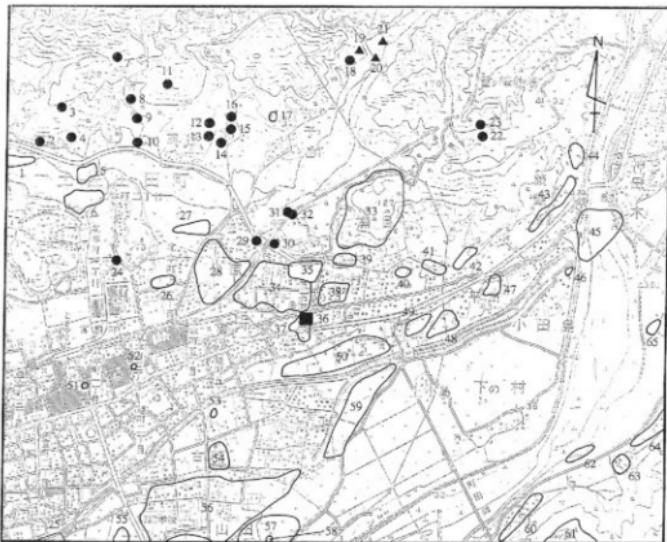


図2 大塚遺跡周辺の遺跡分布図 (S = 1 : 25,000)

番号	道跡名	時代	番号	道跡名	時代	番号	道跡名	時代
1	西クレトリ遺跡	弥生	23	雪ヶ峯2号墳	古墳	45	山田堰	近世
2	東平南古墳	古墳	24	八王寺西古墳	・	46	小田島遺跡	古代
3	杖板2号墳	・	25	下夕野道跡	・	47	郷本遺跡	弥生
4	杖板3号墳	・	26	長谷川丸道跡	・	48	前ノ芝遺跡	古代
5	積キノサキ遺跡	中世	27	メウカイ道跡	弥生	49	大西土居遺跡	弥生
6	山ノ間丸遺跡	・	28	伏原道跡	古墳	50	樅目遺跡	古代
7	深坂古墳	古墳	29	鏡野学園古墳	・	51	公儀の井戸1	近世
8	中沢古墳	・	30	小倉山古墳	・	52	公儀の井戸2	・
9	溝洞古墳	・	31	伏原1号墳	・	53	古町北遺跡	弥生
10	桜ヶ谷古墳	・	32	伏原2号墳	・	54	古町西遺跡	・
11	杖板東古墳	・	33	楠木城跡	中世	55	クロアイ遺跡	・
12	前行山1号墳	・	34	ひびのきサウジ遺跡	古墳	56	原遺跡	・
13	前行山2号墳	・	35	ひびのき同の神母遺跡	弥生	57	高柳遺跡	中世
14	神母古墳	・	36	伏原大塚古墳	古墳	58	高柳土居城跡	・
15	大元神社古墳	・	37	大塚遺跡	・	59	稻荷前遺跡	古墳
16	大元神社北古墳	・	38	ひびのき遺跡	弥生	60	ガニウド遺跡	・
17	山田氏累代墓所	中世	39	ひびのき大河内遺跡	・	61	烏ヶ森城跡	中世
18	予岳古墳	古墳	40	田所神社遺跡	・	62	加茂神社西遺跡	・
19	予岳窓跡	古墳	41	横田遺跡	・	63	加茂遺跡	・
20	長谷山1号窓跡	平安	42	南森城跡	中世	64	山田島遺跡	古墳
21	長谷山2号窓跡	・	43	宮田遺跡	弥生			
22	雪ヶ峯1号墳	古墳	44	雪ヶ峯(談議所)城跡	中世			

表1 周辺の遺跡

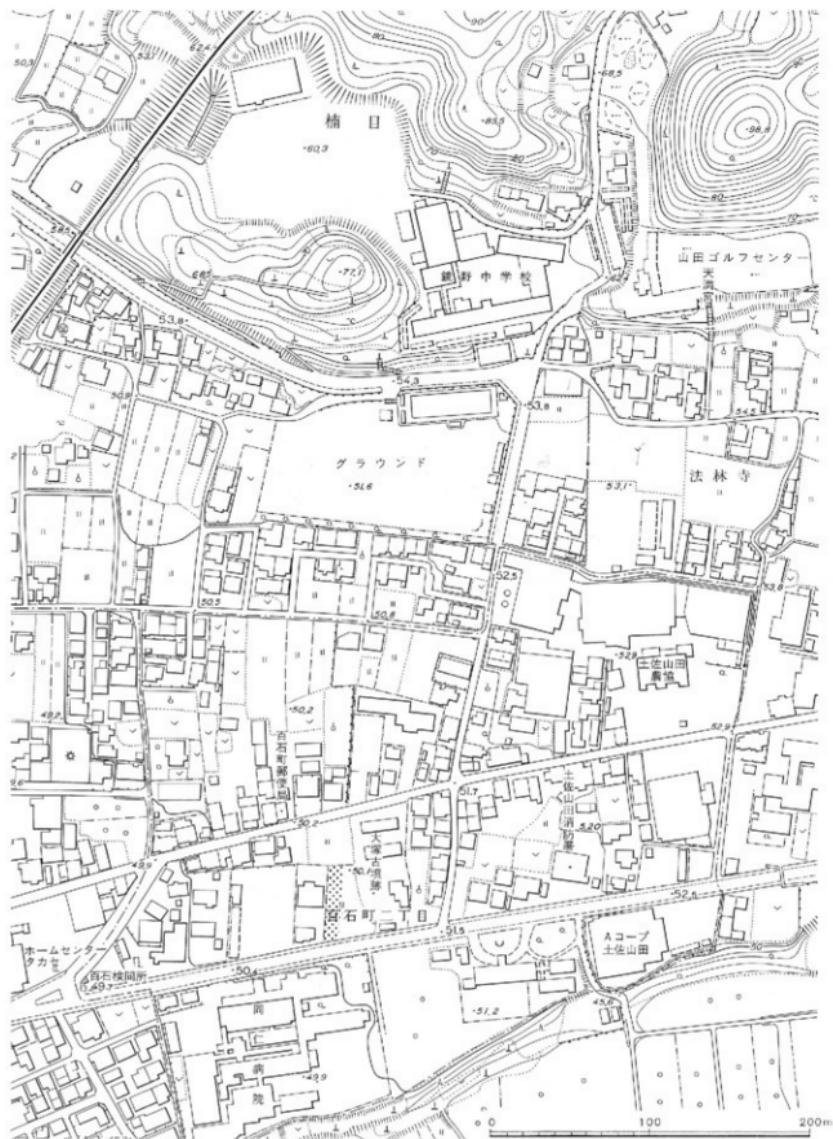


図3 調査区位置図

第Ⅱ章 調査に至る経過と調査方法

1. 調査に至る経過

大塚遺跡は土佐山田町市街地の東側部分に位置する。都市計画区域の市街地区域に含まれております。近年周辺部の宅地開発が著しい。大塚遺跡は高知県内唯一の円筒埴輪を有する伏原大塚古墳（方墳）に隣接し、一部古墳の周溝と重複する。

本遺跡には個人病院があり病院の駐車場整備計画があがり埋蔵文化財保護法による遺跡発掘の届出が出され、岩河整形外科と協議した結果、駐車場予定地に対して全面調査を行うこととなり本病院より土佐山田町が発掘調査の委託をうけ緊急発掘調査を土佐山田町教育委員会が主体となり発掘調査を実施した。

2. 調査の方法

試掘調査の結果により、遺構が確認されたため調査区を設定し、耕作土等の表土を主に重機により除去継を行ない、遺構検出面または、遺物包含層直上まで掘削を行なった後、人力による精査を行なった。遺構、遺物の出土状況及び土層等については、写真撮影を行なった後、平面図及び断面図を作成した。遺物の取り上げ、遺物の実測については、任意座標に基づいて地区全体に4m方眼をかけ記録、実測を行なった。平面実測、及び地層断面については、20分の1を基本とし、必要に応じて10分の1の実測を行なった。

3. 遺構と遺物について

本調査前に任意のトレンチを設定し、試掘調査を行い溝跡、ピットが検出された為、全面調査をおこなった。

調査区からは溝跡、土壙、柱穴が確認された。出土遺物は土師質土器、須恵質円筒埴輪片、須恵器（甕）が出土している。以下、詳細は第Ⅲ章で述べる。

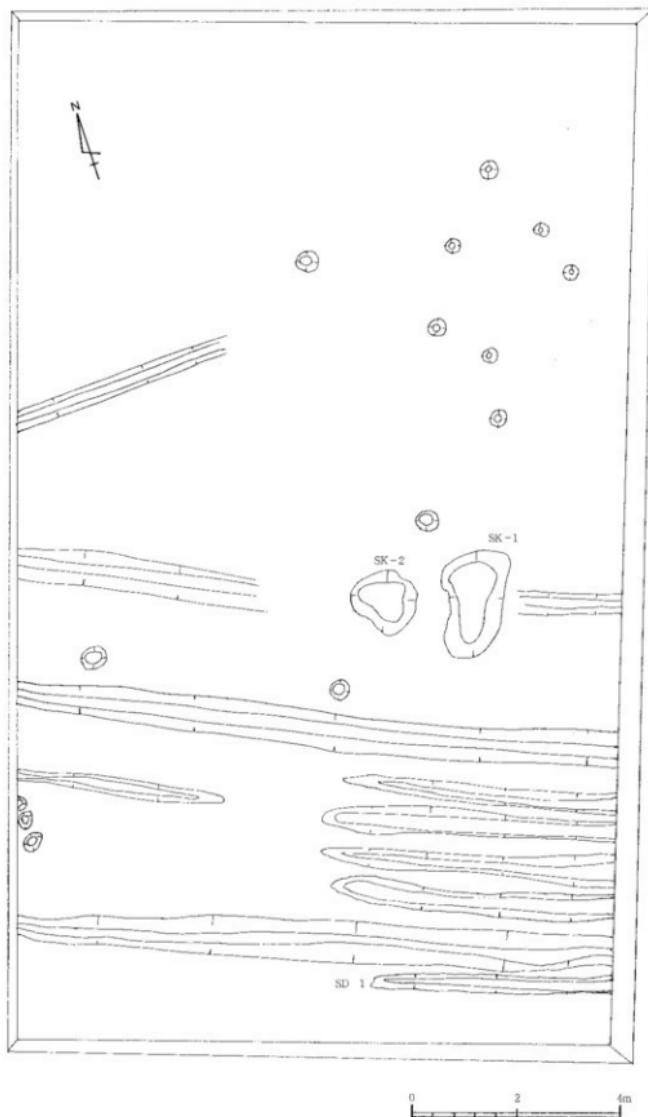


図4 大塚遺跡 沿標平面図

第Ⅲ章 遺構と遺物

(1) 土壙・溝跡

SK-1

調査区中央部東側に位置する土坑で最長1.9m、最短0.9mで、やや楕円形の形を呈する。底部は深さ、1.2mを測り、拳大の川原石が見られる。遺物は番号1の土師質土器の杯が出土している。精練された粘土で、内外面ともにロクロによる横ナデ調整が施されている。底部平底で回転糸切りがみられる。

SK-2

調査区中央部に位置する土坑で最長1m、最短0.8mで円形の形を呈する。底部は深さ、1.1mを計る。遺物は番号2・3・4の土師質土器の杯がが3点出土している。2と3は精練された粘土を使用し、内外面ともにロクロによる横ナデ調整が施されている。底部は平底で回転糸切りがみられる。4は手づくねによる形成で内外面に指圧痕がみられる。

SD-1

調査区中央部を東西に走る溝跡で、幅0.8m、深さ0.4mを計る。遺物は土師質土器の細片が出土している。

(2) 包含層遺物

遺物包含層からは須恵器、須恵質円筒埴輪、鉄鎌が出土している。

須恵器 鉢

遺物番号5は須恵器の鉢の口縁部でロクロによる形成がみられ、口縁部はシャープに仕上げている。

須恵器 壺

番号6は須恵器の壺の胴部片で表面には叩き目がみられ、内面には青海波紋の叩き目による調整がみられる。

須恵質円筒埴輪

遺物番号7・8・9・10・11は須恵質円筒埴輪の破片で内外面ともにヘラによる横ナデ調整が施され、横線がみられる。番号7は埴輪胴部の箍が貼り付けられている。

鉄鎌

遺物番号12は鉄鎌で残部は全長5.9cm、幅2.2cm、厚さ1.1cmを計る。

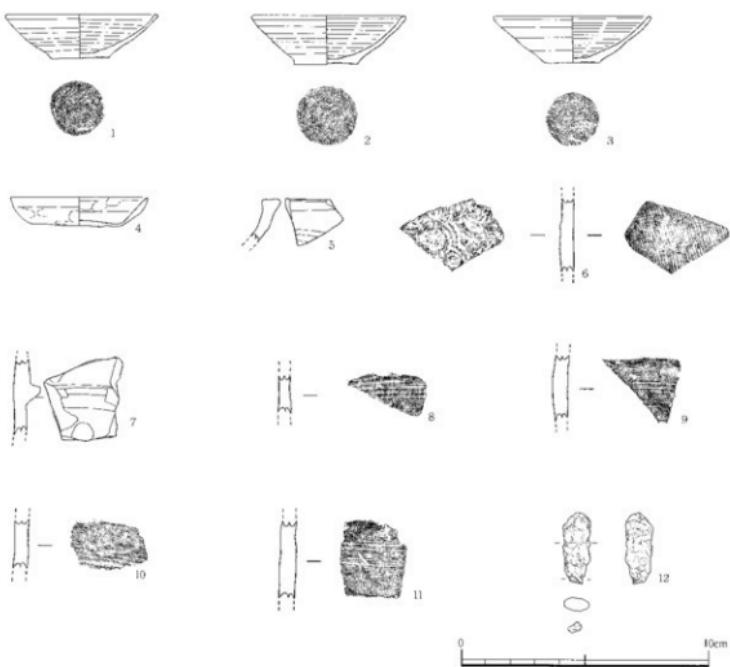


図5 大塚遺跡 遺物実測図

実測 No.	国 No.	号 No.	分類	出土地點 遺構・層位	種別	断面	法量 (cm)	始 土	焼成	色 調	特徴
1	1	2	1	SK-1	土師質土器	杯	12.2 3.7 4.6	良	内面: 7.5YR6/4C 外面: 7.5YR6/4C 縁部: 7.5YR6/4C	クロによるサク調整/武船形切妻切り	
2	2	3	1	SK-2	土師質土器	杯	12.4 4.1 5.1	良	内面: 7.5YR6/4C 外面: 7.5YR6/4C 縁部: 7.5YR6/4C	クロによるサク調整/武船形切妻切り	
3	3	4	1	SK-1	土師質土器	杯	12.6 3.9 4.3	良	内面: 7.5YR6/4C 外面: 7.5YR6/4C 縁部: 7.5YR6/4C	クロによるサク調整/武船形切妻切り	
4	4	1	2	SK-1	土師質土器	杯	11.2 2.5 7.7	良	内面: 7.5YR6/4C 外面: 7.5YR6/4C 縁部: 7.5YR6/4C	マズくね	
5	5	10	3	II層 (I層部)	粗挽土器	壺		良	内面: 2.5YR6/2C 外面: 2.5YR6/2C 縁部: 10YR6/2B	クロによる調整/外面に擦痕	
6	6	7	3	II層 (I層部)	粗挽土器	壺		良	内面: 2.5YR6/2B 外面: 2.5YR6/2B 縁部: 10YR6/2B	クロによる調整/外面に叩き目/内凹青海波反	
7	7	11	4	II層	須恵質	円筒埴輪 (頭部)		やや 良	内面: 2.5YR6/2B 外面: 2.5YR6/2B 縁部: 2.5YR6/2B	クロによる調整/外面に模様	
8	8	6	4	II層	須恵質	円筒埴輪 (頭部)		やや 良	内面: 2.5YR6/2B 外面: 2.5YR6/2B 縁部: 2.5YR6/2B	クロによる調整/外面に模様	
9	9	8	4	II層	須恵質	円筒埴輪 (頭部)		やや 良	内面: 2.5YR6/2B 外面: 2.5YR6/2B 縁部: 2.5YR6/2B	クロによる調整/外面に模様	
10	10	9	4	II層	須恵質	円筒埴輪 (頭部)		やや 良	内面: 2.5YR6/2B 外面: 2.5YR6/2B 縁部: 2.5YR6/2B	クロによる調整/外面に模様	
11	11	5	4	II層	須恵質	円筒埴輪 (頭部)		やや 良	内面: 10YR6/2B 外面: 2.5YR6/2B 縁部: 2.5YR6/2B	クロによる調整/外面に模様	
12	12	12	5	II層	板瓦		全長: 59 台幅: 22 厚さ: 1.1	良			

表2 遺物観察表

第IV章 総括

本調査区は平成3年度に調査をした大塚遺跡、また平成5年度に調査した伏原大塚古墳に隣接する区域で、以前の発掘調査結果から15～16世紀の遺物を伴う土坑墓群が確認されている。

今回もこれら以前の発掘調査で確認された遺構と大差はないが墓地群の広がりを確認できた。ただ伏原大塚古墳の調査時の密集して検出された状況とは異なり土坑墓は少なく本調査地区が墓地群の縁辺である可能性が高い。山田氏の楠目城下の市町、家臣集落、寺院群など今後の楠目城下町の研究をする上で参考資料となる。

写 真 図 版



大塚遺跡周辺航空写真



道構検出状況



道構検出状況



道構検出状況



道構検出状況



道構検出状況



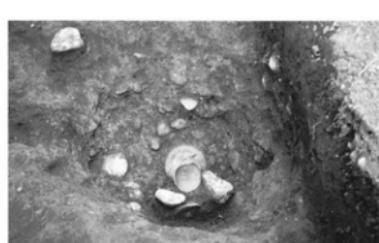
道構完掘状況



溝跡集石



溝跡





報告書抄録

ふりがな		おおつかいせき					
書名		大塚遺跡					
副書名		個人病院駐車場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
卷次		II					
シリーズ名		土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書					
シリーズ番号		第24集					
編著者名		中山泰弘					
編集機関		土佐山田町教育委員会					
所在地		〒782-0017 高知県香美郡土佐山田町岩積365-1					
発行年月日		平成16年5月28日					
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 。 。 。 。 。 。 。	東経 。 。 。 。 。 。 。	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
おおつかいせき 大塚遺跡	こうちけん 高知県 かみぐん 香美郡 ときやまだちょう 土佐山田町 じやくごくちょう 百石町 2丁目 169番地	393231	39° 33° 37'	133° 40'	平成7年 8月1日～ 9月20日	500m ²	個人病院駐車 場整備に伴う 発掘調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
大塚遺跡	集落	弥生 中世	土坑墓・溝跡 ・柱穴	須恵器、 須恵賀円筒埴輪、 土師質土器			

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第24集

大塚遺跡Ⅱ

個人病院駐車場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成16年5月28日

編集・発行 土佐山田町教育委員会

高知県香美郡土佐山田町岩積365-1

TEL 0887-53-3111(代)

印刷 有限会社西村謹写堂

